

本人に関する情報	基本的生活習慣（衣食住） 時々夜更かしをすることはあるが、基本的には0時頃までには寝て、8時頃に起きている。食事はきちんと摂れており、身なりもきちんとしている。	
	行動の特徴 活発な児童である。ただ、色々な面で好き嫌いが激しく、嫌なことを我慢することが難しい面がある。自分にとって嫌なことなどに直面したときには逃げる傾向がある。	
	学力・学習（読み書き・計算、得意不得意、教科別） 現在は学校に行っていないため、学力は十分身に付いていない状況である。	
	言語コミュニケーション 誰に対しても乱暴な物の言い方をすることがあり、思いを他者に伝えるのが苦手である。	
	対人関係 D市に仲の良い友人がいる。学校の上級生や同級生は避ける。人と関わることにに対する不安が非常に高い様子。	
	健康（身体的・精神的） 身体的に大きな問題はない。精神面では、幼少期に指摘されていた情緒的な不安定さについて、家庭では気にならないと母親は学級担任に話している。	
	興味・関心 ゲームやマンガが好き。体を動かすことも好き。	
本人の思い・希望 学校に行く意思是現在感じられないが、友だちを作りたいという様子が見え隠れする。		
アセスメント（見立て） 本児童は両親の関係や家庭機能の低さなどにより、不安が大きく自分に自信が持てない状態である。しかし、個別や小集団では他者と関わる事が可能と思われる。また、家庭や周囲については、転居や保護者の対人関係に問題があることから地域とのつながりが希薄で、孤立している状況である。ただ、現状を改善したい気持ちが母親に強いので、支援を受け入れることができると思われる。したがって、支援を行うことで、家族の中では本児童と父親が外で活動することが可能と思われる。		
プランニング（目標）		
長期 保護者が精神的に安定するとともに、生活も安定するようにする。子どもたちが再登校できるようにする。		
短期 母親の精神的安定、父親の就労相談を目的とした継続的な保護者相談を行う。また、本児童が家族以外の人物と人間関係を構築できる場を作るため、家以外での活動の場所を作る。		
プランニング（手だて） ・担任は、信頼関係の構築を目指して家庭訪問を継続し、本児童への学習支援も行う。また、本児童の対人関係を広げるために適応指導教室への入室を促す。母親は障害があり車の運転ができないため、地域生活相談センターを担任が紹介する。地域生活相談センターは福祉有償運送制度を活用することによる送迎の方法を提案し、母親とのつながりを作る。 ・本児童の学校の管理職と兄の学校の管理職が連携を取り、母親の精神的安定及び父親への就労に関する相談を目的として、保護者と定期的な面談の機会を設けるよう働き掛ける。また、地域生活支援センターが相談上必要な情報を管理職に提供するとともに、具体的な福祉支援のために、必要に応じて相談の場にも参加してサポートする。		
短 期 目 標	誰が：誰に	具体的手だて・役割
家庭との関係を築くとともに、適応指導教室につなげる	担任：本児童・母親	家庭訪問を継続することで、本児童や保護者との信頼関係を結ぶ。学校の情報提供や学習支援、適応指導教室の紹介を行い、それらについての相談を行う。
適応指導教室へ通室する方法を作る	地域生活支援センター：母親	担任の紹介を受けて母親と連絡を取り、適応指導教室に通室するための方法について相談の場を持つ。これをきっかけとして母親とつながりを持つ。
兄の学校と連携して保護者との面談を行う	管理職：兄の学校の管理職	母親の精神的安定および父親の就労に関する相談のため、兄の学校の管理職との連携を図り、保護者との定期的な面談の機会を設ける。
母親の相談及び父親の就労相談をサポートする	地域生活支援センター：管理職	母親の精神的安定および父親の就労に関する相談について、管理職と連携しながら情報提供を行い、管理職と保護者との面談をサポートする。必要に応じて相談にも参加する。
支援チームによるケース会議を実施する	S S W：関係機関	本児童及び兄の学校、福祉課、教育委員会、地域生活支援センターがスムーズに連携できるよう、情報を集約し共有するための窓口になるとともにケース会議を行う。
次回ケース会議日程 〇〇月〇〇日（〇）〇時から 場所 〇〇小学校		